

サンデーサイエンス

どうぶつのちぎり絵をつくろう

担当：動物研究室

1 内容

動物の体のつくりや、色彩に注意しながら、ちぎり絵でそのかたちを再現することにより、楽しみながら動物の形や色がそれぞれの種、年齢、性によって異なることを知り、そのことが、動物たちの生活にどのように役立っているか理解する。

2 準備物

各種動物標本（哺乳類、鳥類、昆虫類、甲殻類など）、図鑑、各色の和紙、糊（スティックタイプがよい）、鉛筆、消しゴム、貼り付け用台紙（A4 サイズ※製作者の名前、年齢、動物名を記入する項目が入ったもの）、ラミネートフィルム（A4版）、ピンセット

3 手順

- (1) 動物クイズを行い、動物の形や色がそれぞれの種、年齢、性によって異なることを知る。
- (2) ちぎり絵の対象動物を選ぶ。実物の標本から選ぶことも、図鑑や写真集などから選ぶことも可とする。また幼児の場合は、記憶から製作することも可とする。また頭部のみや、足先だけといった体の一部でも可とする。
- (3) 台紙に鉛筆で簡単に下絵を描く。細かく描く必要はないが、台紙全体に大きく描くように助言する。
- (4) 対象動物の暮らしを、その形や色から想像しながら、台紙にちぎった和紙を貼り付けていき再現する。特に生態に着目しながら、なぜ形や色が違うかについて考え製作する。
- (5) ちぎり絵が完成したら、ラミネート処理を行う（機械の操作は指導者が行う）。



参加者の作品（カラスアゲハ）



動物クイズを行う（鳥のレクチャー）



動物クイズを行う（昆虫のレクチャー）



ちぎった和紙を貼り付ける



パウチシートをかけた熱処理を行う

4 注意点

- ・和紙を貼り付ける際に水分の多い糊を使用すると、パウチシートの熱処理時に色変化などを起こすので、スティックタイプの糊のよう含水量の少ない糊が望ましい。また、和紙をあまりかさね過ぎると、パウチの熱処理がうまくいかなくなる。
- ・和紙の色には限りがあるため、正確に動物の体色を再現することはできない。そのため、近似色を利用するように指導する。また、参加者の多くは黒を多用する傾向があるが、実際には本当の黒色は動物の体にそう多くはないことを観察から見いだせるように説明する。